

資料1-1 湯川地区の津波対策（課題と対応策）（第1回・第2回地区協議会のまとめ）

【1・2・3グループ】

第3回地区協議会資料
(平成28年6月16日)

開催日	H27. 5. 28地区協議会（第1回）		H27. 10. 22地区協議会（第2回）	
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
堤防整備 (津波)		(県) ・地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する堤防の整備を検討できます。 ・堤防の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができます。 (市) ・ハザードマップの作成	現況高	・現況4.0mが一番低い高さである。7.5m必要と聞くが景観を考え4.5mまで最低でも堤防を嵩上げしたらどうだろう ・観光地であるため景観は重要 ・景観的に良くない ・現況でもお客さんが少なくなっているのに、まったく海岸が見えなくなると問題 ・外から海が見えない。人出がへる。 ・湯川地区の場合、山が近いので5分以内で逃げられる人が多いのではと思う。 ・不要 すべての津波が防げれば必要と思うが・・・ ・現況維持 L1.2の可能性が低いため ・不要 海が見えない（津波）100%おさえられない にげればよい ・不要 海が見えないと不便（漁師）
			L1堤防高	・レベル1に対応出来る7.5mが必要 ・7.5mまで欲しいと思うが商業者等の理解が得られるか疑問！ ・作るのであれば道路を7.5m上に作れないか ・7.5mは必要だと思う ・堤防にペイントなどをほどこし景観を良く見せる ・離岸堤には対策出来ないか？
			L2堤防高	・中途半端な嵩上げであればいらない 10m ・7.5m以上欲しい ・堤防を作っても完全にふさぐ事ができなければ意味がない
			6.25m 現況最高さ 景観を考えた 高さ	・景観は妨げられるが6.25mまでかさ上げする ・伊東は観光が主産業であり景観が大事。中途半端な高さは意味が無いと思う。 ・湯川海岸は現況、又は+1mぐらい ・海面が見えなくなると、海を見て判断していることができなくなる
			判断できない	・造ったときの影響（観光）がわからないと何ともいえない ・地区内で必要、不必要な箇所がある ・観光や景観を守る機能を兼ねればよい
崖崩れ	・ガケ崩れ	(県)(市) ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備		
避難場所 (収容・鍵)	・避難ビルの各階の海拔表示がなく、何階までのぼればいいのか判らない ・津波避難ビル（ロカンダ駐車場）の耐震性が心配 ・津波避難ビルの外階段の入口に鍵がかかっており、入れないという話がある ・避難場所が倒壊する恐れがある ・避難所は安全か ・避難所は丈夫か？人が入れるか？ ・逃げるのに、人が殺到した時、次にどこに逃げたらいいのか？ ・センチュリー21 鍵があり、避難できない	・津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わない判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 ・避難所の耐震診断等については、今後、検討していきます。 ・センチュリー21については、防犯上の問題から、通常時は避難口を施錠していますので、発災時には管理人の開錠が必要となります。	避難ビル	・避難ビルの非常階段のカギが自動的に開く設備を市で設置して欲しい
			避難タワー	・海岸付近に避難タワーが必要 ・住民の避難する気持ちが大切 ・避難ビルは入りにくい ・タワー理想は湯川区民会館（ここ）
避難路 (避難経路の 安全性)	・避難路の交通事情（放置or通行の車） ・避難する道路を通れるか ・道路が狭い ・避難場所までの道が確保されているか ・避難経路の消滅 ・倒壊建物が道路をふさいで、避難が難しい ・道路は、倒壊で通ることが出来るのかな ・隣に古い木造家屋が多いので、倒壊して避難路がないのが心配	・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。 ・今年度（27年度）中に、津波ハザードマップを配布する予定ですので、避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。	線路	・線路を越える場所が少ない ・駅のホームを通過して逃げる ・線路の上への避難となる為ふみ切りなどの整備 ・伊東駅から伊東公園までの歩道橋 ・湯川地区は避難場所が北中、伊東公園なのでJR伊東駅の駅構内の線路を避難ルートとして許可を取れるようにしてほしい

開催日	H27. 5. 28地区協議会（第1回）		H27. 10. 22地区協議会（第2回）	
分類	意見	考えられる対応策	意見の分類	意見
避難路 (避難経路の 安全性)	<ul style="list-style-type: none"> ・道幅がせまく、避難中に建物が壊れ、下敷きになる恐れ ・駅裏に行くのに、ガードは心配 ・ガケ崩れが心配 ・山崩れなどで、道路は寸断されていないか ・避難通路は確保できるか ・年寄がいる場合、短時間（5分以内）で避難できない？ ・家の周りの方々が、正しい避難方法で避難できるのか ・夜発生した場合に、スムーズに（短時間に）避難できるか心配 ・すぐ近くに、高い建物・高台に行けるルートはあるか？ ・避難場所までの移動ができるか ・避難場所は家族で決めてあるが、そこまで行けるかが心配 ・駅のホームを越えるのがたいへん ・駅の方へすぐ逃げる ・伊東公園方面に逃げる際に、ホームをスムーズに横断できるか心配 ・電柱が倒れる、電線が切れて危険 ・電柱とその架線が倒れている場合がある ・避難中の地震 	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。 		
避難にかかる時間	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4分で避難できるか ・避難場所に間に合うか ・高台（高い建物）までの所要時間 津波到達まで間に合うか 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水区域外への避難が原則ですが、間に合わないと判断したときは、津波避難ビルや倒壊を免れた高い建物に避難をしてください。 		
避難の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の仕方 車・徒歩 決めておいた方がよい？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩で避難してください。 		
災害弱者	<ul style="list-style-type: none"> ・老人がいるので、避難が遅れるのが心配です ・同居する老人の事 ・避難場所まで歩行できない ・時間内に避難できるのか ・我家はともかく、近所に住む高齢者が心配 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。 ・発災直後は、自助、共助が必要となります。 		
自宅・家族・自助 (家族・近所の人の安否・救助)	<ul style="list-style-type: none"> ・主人と一緒に速やかに避難する ・我が家は木造なので家が心配だが、まず自助を心掛ける事 ・笛・ライト等の携帯 マウス ・家族の安否（外へ出ている） ・家族・親族・近所の方 ・地震により崩れた家の住民の人の救助？ ・老人をかかえて、すぐ避難できるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災直後は、自助、共助が必要となります。 ・安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。 		
自宅の心配	<ul style="list-style-type: none"> ・家の出入口が開くか？ ・自宅家屋の倒壊 ・自宅は津波の心配はないが、家の倒壊はしないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい。（TOUKAI-Oによる支援） 		
情報 (ライフライン・情報)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに行けば、安全なのかな ・津波の情報がほしい ・情報をまず知る ・地震・津波の大きさ ・震源場所 ・情報が入るか ・電話が通じるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に、津波ハザードマップ（防災ガイドブック）を配布する予定です。 ・同報無線放送やラジオにより情報を入手してください。 		
火災	<ul style="list-style-type: none"> ・火災予防対策 ・ガス・電気→火災 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。 		
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・地震後の食料などの確保は出来るのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災直後は物資の援助は期待できません。各自での備蓄をお願いします。 ・自助、共助が必要となります。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地震が7分～5分 自宅から1番近いパークロカンダへ行く事しかない 			